

館山支部だより Vol.103

<支部連絡窓口>
千葉県隊友会館山支部
事務局(代表)川村 巖
〒294-0032 館山市笠名1357
TEL 0470-22-0230



一足早くヤマザクラ満開
(3月初め 杜宅の庭先にて)
ソメイヨシノが開花される明後日前
までは日本固有種のヤマザクラが主流
であった。 葉(芽)と花が同時に咲
くのが特徴。

昨年来猛威をふるい続けている新型コロナウイルスですが、今月21日に「再度の緊急事態宣言」が解除されたとはいえ、危惧された変異ウイルス感染拡大の兆しもあり、先行きまったく不透明の感があります。

「人が集まり、かつ声を出す・飛沫を飛ばす」ことが感染拡大の大きな要因となっていることは確かで、日常生活の中で「より確実な感染拡大防止対策の実行」が叫ばれております。

自衛隊部隊では、日常生活の中で「30秒間以上(かなり長く感じますが)の手洗」を励行しているということです。団体行動・集団生活を基調とする自衛隊が、「感染者を出さない・拡大させない」ための懸命な努力を払っている様子が目に浮かぶようです。

我々OBも頑張ろうではありませんか！ <支部長>

支部の活動概要

<<4・5月活動予定>>

- 4.3(土) 千葉県護国神社春季例大祭清掃奉仕
- 4.16(金) 令和3年度千葉県隊友会通常総会
(千葉市生涯学習センター)
- 5.15(土) 令和3年度館山支部総会(コミセン)
- 5.29(土) 5月支部役員会(コミセン)

<<2・3月活動実績>>

- 3.3(水) 千葉県隊友会理事支部長会議(千葉市民会館)
- 3.20(土) 館山市戦没者慰霊祭(鶴ヶ谷八幡宮、中止)
- 3.27(土) 年度末支部役員会(コミセン)

令和3年度館山支部総会行事について

恒例の館空会との合同行事(両会総会ほか)の時期を迎えますが、コロナ禍の先行きが依然として不透明であり、予測し難い状況に鑑みて今年は「恒例の合同懇親会は行わない」ということで5月15日(土)に実施することになりました。(細部は下記コラム欄参照)

(4月16日に予定されている千葉県隊友会の通常総会行事においても、恒例の懇親会は取りやめられております。)

なお、今後の新型コロナウイルスの感染拡大防止に係る動向を見極めながら、最終的な実施の能否については5月初めに両会の協議により決定することにしておりますのでご了承下さい。

(その際、参加予定者には別途連絡することになります) <支部長>

<<総会スケジュール>>

期日:5月15日(土) 10:00~12:25
場所:コミュニティセンター第一集会室

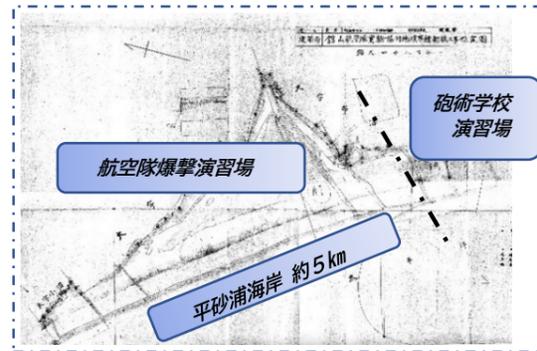
<行事時程表>

- 9:40~ 受付開始
- 10:00~10:45 館空会藤田顧問講話
演題「館空会のあり方」
- 10:50~11:35 館空会総会
- 11:40~12:25 館山支部総会

館空会に所属する会員については、別途、館空会会長から出される案内状に基づいて出欠の返信をして下さい。返信期限:4月16日(金)

なお、講話については館空会会員を対象とするものですが聴講を希望する方は申し出て下さい。

<事務局>



<記事>館山航空隊の爆撃演習場と砲術学校陸戦演習場の概略位置関係
おおむね点線(相浜、洲宮付近)を境にして東西に分かれていたと考えられる。
昭和4年に出された館山航空隊爆撃演習場の境界標設置図をもとにしたもの。

随想:「高層マンションから物の投げ捨て」禁止法? ?

お隣の大国の話ですが、高層マンションなどの上階から鍋や包丁、さらにはソファなどを投げ捨て、それが歩行者を直撃して重傷や死亡という深刻な状況を招く事例があとを絶たず、今月初めに表記のような「禁止法」を制定して違反者を厳重に取り締まるようになったとか。それにしても悪質極まる「あおり運転」とは異なり、危険なことには変わりはないと思うのですが、こういうことまで法令で取り締まらなければならないのか不思議でならないのです。2010年代に急速な経済発展を遂げた中国では、高層ビル・マンションが乱立され、庶民の生活が飛躍的に向上する一方で、公共心とかマナーが追いついていないというのがもっぱらの見方ようです。

昨年、中国では「食べ残し禁止令」を出して「大食い番組」の企画者や宴席で残飯を出した業者などに罰金を科すようにしたと言っています。背景にある深刻な食料危機対策として、食べ物の浪費行為を徹底的に取り締めて節約の意識を国民に植え付けようという習主席の強い意図が込められているようですが、法令で罰する以前になすべき根本的な対策がありそうな気がするのですが。

10年ほど前、上海を流れる何とかいう大河に合計2万匹近い豚の死骸が漂着したことがありました。病死か何かで上流から投げ捨てられたもののようですが、この河は上海市民の飲用水源として取水口が何か所があるにも関わらず、当局は「水質に問題なし」を繰り返すだけで特段の対策を講じようとしなかったようです。海や河川を「ゴミ捨て場」と心得、ポイ捨て感覚で大量のゴミを処理する風習が人々の間にはびこっているとかで、むしろ「河に豚を投げ捨てるべからず」という法律でも出して取り締まるべきではないでしょうか。

2011年に中国が誇る高速鉄道で、運行中の列車が停車中の車両に衝突して脱線、高架橋から落下し多数の死傷者を出した事故がありました。落雷による運行管制システムの故障が原因のようですが、度肝を抜かれたのは、生存者の救出や事故原因の究明をそこそこに、脱落した4両の車両をいち早く解体して重機で埋め、事故の2日後には運行を再開したことなのです。国益とか国の威信をかけた事業を最優先する中国では、人命尊重とか安全重視を叫んでも通用しないのですね。なにせ類例のない「憲法の上に党を置く」国であり、「愛国」とは「国家と党を愛すること」と強調されているように、物事の「道理が通らない」、引っ込んでしまうのです。

昨年(の全人代(全国人民代表大会))で「国家安全法」を成立させて即日施行、香港の多数の民主派を逮捕拘束し、この3月の全人代では香港の「選挙制度を改正する法」を制定して香港の民主派の活動を封じ込めることに成功し、これによって「一国二制度」が形骸化し完全に消え失せることになったことは、中国の「正常な発展」の上で残念なことだと思うのです。誰も異議を唱えない、反対できない国なのですね。ともかく色々分からないこと、理解できないことが多い国ですね。 <<中国の近現代史に関心を持つ会員(海)>>

「戦時の平砂浦」・砂に埋もれた館山航空隊の歴史

「戦時の平砂浦」から連想されるのは館山砲術学校の陸戦演習場であろう。かつてこの平砂浦に館山航空隊の爆撃演習場があったことについてはほとんど知られていない。千葉県及び館山市の公式サイトを開いても館山砲術学校のことしか書かれていない。十数年前、この爆撃演習場のことを調べるため地元の長老を尋ね歩いたがまったく徒労に終わった。砲術学校より歴史も長く、全長5キロに及ぶ平砂浦海岸の爆撃演習場だけに、これを知る人がいないということは不思議でならない。「一夜にして地形が変わる」と言われるほど猛烈な砂嵐によって爆撃演習場の歴史も埋め尽くされてしまったのであろうか。

爆撃演習場の建設と地域社会との協調

防衛研究所保管の古文書から、昭和5年の館山航空隊の開隊と前後して平砂浦海岸一帯に航空隊の爆撃演習場が造られたことは紛れもない史実である。古文書の中から爆撃演習場の建設にまつわる「埋もれた歴史」の断片を紹介することにする。

○演習場用地は当時の大蔵省(現財務省)からの管理替えによるもので、おそらく明治の廢藩置県によって里見氏の領地が国の管理に移されたことに由来するものであろう。大蔵省の「雑種地」として管理されていたが境界柵も使用の規制も何も無かったようである。

○爆撃演習場の境界標の設置によって、地元住民から土地の使用について陳情が出された。先祖代々、砂嵐との闘いに明け暮れ、不毛の砂地を耕作して生活を営んできた地域の住民にとって、演習場の建設は死活問題であったのである。

その時の西岬、神戸村村長から出された申請書の文面にも、先祖代々これらの土地は共有地?とと思って慣行的に耕作して生活を営んできたもので、砂防事業とともに耕作地としての継続使用を嘆願する住民の心情が切々と訴えられている。

○住民からの陳情を受けて、海軍は演習場境界沿いの田畑に対して土地の「有償使用」を、さらに演習場内の小川沿いの共同事業(砂防植林)に対しては「無償使用」を許可している。生活にかけた住民の労苦に理解を示した海軍の温情的な措置と言ふべきであろう。

語り継がれている「居住地・田畑の強制買収、松林が手あたり次第伐採され白砂青松の平砂浦の景観が消え失せた」云々といった戦時・旧軍のイメージとは、おおよそほど遠いものを感じるのである。

砲術学校の陸戦演習場と同居・共同使用?

館山航空隊爆撃演習場の使用状況を知ることでできる記録資料は見当たらないが、日米開戦の翌年に演習場に爆撃監的所が建設され、昭和18年には「演習場管理規則」が改定されて館山航空隊司令が演習場の統制権者に指定されている。開戦以降、他の航空隊との使用の競合が激増したことを物語っており、このことから爆撃演習場と陸戦演習場の同居・共同使用ということは考えられない。

砲術学校演習場の範囲を特定できる記録資料は見当たらないが、偶然入手した予備学生の「偵察斥候訓練行程図(当時、教官が訓練生に配付したと思われるガリ版刷りの資料)の中に「巴川や養老橋」などの地名等が出てくることから、砲術学校の陸戦演習場は爆撃演習場の南南東側に位置するものと考えられ全長5キロに及ぶ平砂浦海岸一帯の館山航空隊の爆撃演習場とは一線を画していたと考えられるのが順当であろう。

この平砂浦は、航空機搭乗員にとって必須のステップ「射爆(射撃爆撃)」の腕を磨く上でかけがえのない訓練の場であり、ここで訓練を受けた多くの搭乗員が戦地に赴き壮絶な戦死を遂げられたという、館山航空隊の15年に及ぶ歴史の重要な部分を占めていると言ってもよい。

「戦争を風化させない、悲惨な歴史を語り継ぐ」とよく言われる。本当かウソかわからない都合のよいことだけを並べ立てたのでは真に歴史を語り継ぐことにはならない。歴史には出来事とともにその中で生きた人々のもろもろの思いが宿されているのである。

<<自称地域史探索マニア その28>>